

第56回臨床検査技師国家試験への本校第3学年の取り組み
—全員卒業、全員合格への挑戦—

○^{かとりなおみ}香取尚美, 山田洋之, 浅井晶子, 谷口智也, 望月泰男, 山藤 賢
(昭和医療技術専門学校)

【はじめに】本校における近年5年間の国家試験平均合格率は98.4%である。毎年、全員合格(合格率100%)は結果的な目標の一つとしているが、それよりも本校が重視し、常に目標としてかかげているのは、「全員卒業、全員合格」というスローガンであり、学校教育の在り方として、重要視している。過去本学会においても本校独自の伸展教育についての発表はしてきたが、学生同士の絆を大切に、全員で卒業、合格を目指す、本校の学生、教員の昨年度の取り組みについて報告する。

【対象及び方法】対象は、昨年度の卒業生75名とする。第3学年生は4月より、6ヶ月に渡っての臨地実習があり、技師としての心構え、知識、技術の向上を図るとともに、学内では、就職説明会や、英検受験、遺伝子分析科学認定士の受験などに取り組んできた。国家試験合格の一つの目安として、12月終了時点での模擬試験5割を目標とした。例年とは違う国家試験への取り組みとして、臨地実習報告会、卒業研究発表会をそれぞれ1ヶ月早めた。それらの発表後、通常授業、朝・夜の特別講義、補講などを行っていった。昨年度の特徴的なこととしては、学生同士で勉強のやり方を発案させた。その日の授業をもとに学生が小テストを作成し、復習する時間を作ったり、学生間で相談してペアを作り、積極的に一緒に夜遅くまで勉強していく姿が見られた。そのような、学生同士の支え合いが、単位修了認定試験において、全員1回で単位を修得することができ、模擬試験でも5割を超え、卒業試験においても、全員合格点をクリアし、全員卒業へと結びつくことができた。また国家試験においては、一人不合格となり、残念ながら全員合格とはならなかったが、高い合格率を残すことが出来たと考えている。

【考察】厚生労働省からは現在、出願者数、受験者数、合格者数が公表されている。本校では、それ以前より、全員での卒業、合格をスローガンに掲げた教育を行っているが、今後も、出願者数と受験者数、卒業生数と合格者数の推移などには注目の集まるところと考える。昨年度の3年生は、全員が卒業、国家試験に臨むことが出来たが、全員卒業が、判定のレベルの低いところで実施されたことであれば、それは全員合格へと結びつかず、卒業判定には、今後も、これまでの経験と予測、客観的な正しい見極めと評価が必要となる。本校では、理念として、国家試験の合格を最終目標ではなく、社会に出てから、人のため、社会のために役立つ、人間性ある医療人としての育成を心がけている。

国家試験の合格は、近い大きな目標として、学生としても学校としても大事なことであるが、医療従事者として、最も大切と思われる、人と人とのつながりの中の優しい思いやりや、あたたかい心を育むこと、社会性やリーダーシップの獲得は、大切な譲れない部分であり、学生が自ら主体的に、全員が支え合いながら合格を目指す取り組みには、意義と価値があると考えている。

その方向性と国家試験の合格率を求めることには矛盾はなく、両方を求めることにより、さらなる相乗効果を重ねていくという信念を持ち続け、今後も良き医療人の育成につとめ、全員卒業、卒業合格を目指し続けたい。